

病性鑑定由来細菌の性状調査成績概要

(平成17～20年度に収集した豚丹毒菌、ストレプトコッカス・スイス及びアクチノバシラス・プルロニューモニエについて)

動物医薬品検査所では、平成7年度から動物用医薬品の使用に伴う事故防止・被害対応業務として、変異や変遷が生じやすい微生物あるいは野外微生物環境変化の指標となる微生物を対象として、関係機関から各種微生物株の収集を行っている。収集した微生物株については、血清型別や薬剤感受性試験等を実施し、それら試験成績に関する情報提供をしており、平成17～20年度に収集した豚丹毒菌、ストレプトコッカス・スイス及びアクチノバシラス・プルロニューモニエについての調査成績をまとめたので、その概要を報告する。

豚丹毒菌及びアクチノバシラス・プルロニューモニエの血清型については、菌株の加熱抽出抗原を用いた寒天ゲル内沈降反応、ストレプトコッカス・スイスの血清型については、菌株の加熱抽出抗原を用いたキャピラリー沈降反応によりそれぞれ実施した。

薬剤感受性試験は、米国臨床検査標準委員会 (NCCLS) (現:CLSI) に準拠した寒天平板希釈法により行った。

1. 豚丹毒菌

平成17～20年度の間に収集された合計164株(表1)の血清型別は、1a型が118株(分離株の割合:72.0%)と最も多く、次いで2型が27株(16.5%)であり、これまでの国内分離株における状況と同様の傾向が認められた。その他の血清型として1b、6、8、11、16、17型及び型別不能(UT)が認められた。

表1 平成17～20年度収集株

収集年度	株数
平成17年度	7株
18	26株
19	59株
20	72株
合計	164株

薬剤感受性試験には、18薬剤を供試した。耐性株は、DSM(耐性率;3.0%)、OTC(79.3%)、TS(0.6%)及びLCM(52.4%)に認められた。

2. ストレプトコッカス・スイス

平成17～19年度の間に収集された合計69株(表2)の血清型別については、2型が28株(40.6%)と最も多く、次いで3型12株(17.4%)、15型9株(13.0%)であり、これまでの国内分離株における状況と同様の傾向が認められた。その他1、1/2、4、7、8、9、12、28型及び型別不

能(UT)が認められた。

表2 平成17～19年度収集株

収集年度	株数
平成17年度	31株
18	16株
19	22株
合 計	69株

薬剤感受性試験には、25薬剤を供試した。耐性株は、DSM(耐性率;29.0%)、EM(69.6%)、AZM(69.6%)、TS(69.6%)、LCM(69.6%)、CLDM(66.0%)、OTC(85.5%)、SXT(4.3%)及びCP(1.4%)に認められた。

3. アクチノバシラス・プルロニューモニエ

平成18～19年度の間に収集された合計72株(表3)の内、増殖の認められた69株の血清型別については、2型が48株(69.6%)と最も多く、次いで1型6株(8.7%)、5型4株(5.8%)であり、これまでの国内分離株における状況と同様の傾向が認められた。一方、1型と11型に対する抗血清に反応した株が1株、型別不能(UT)株が12株(16.7%)認められている。

表3 平成18～19年度収集株

収集年度	株数
平成18年度	35株
19	37株
合 計	72株

薬剤感受性試験には、11薬剤を供試した。耐性株は、ABPC(耐性率;1.4%)、OTC(23.2%)、DOXY(1.4%)、DSM(17.4%)、KM(11.6%)、TMP(8.7%)及びTP(20.3%)に認められた。